

# グリーンインフラとしての 公共・民間敷地の機能観測・評価

建築都市学部  
都市デザイン工学科  
教授  
山下 三平



## 研究シーズの紹介

都市型水害対策としてのグリーンインフラ (GI) の普及推進が始まっています。しかし、その機能の体系的観測・評価の不足が指摘されてもいます。そこで本研究は福岡県新宮町に2016年4月に開校した新宮北小学校と、2020年11月に竣工したT社敷地の「雨庭」を対象として、体系的・継続的に水収支と景観価値を把握し、GI普及の要件を明らかにするものです。

新宮北小学校では2017年度から観測をしています。T社敷地は2021年度から観測開始が可能です。前者は公共施設として、雨水貯留浸透による治水機能と植栽散水・トイレ洗浄の利水機能をもっています。後者は民間施設として、流出抑制と景観改善により、雨庭の普及モデルの役割をもつ。両者の多様な機能を把握することで、GIの普及要件が確実に得られます。



### 効果が明確で魅力的な 雨水管理の要素技術

- 気候変動に伴う大雨と、都市化による洪水の激化に適応する、都市型水害対策を行います。
- 誰にでも取り組める、小規模で分散型の、さまざまな効果を提示します。



- 貯留された雨水の量を定期的に図り、流出抑制と水利用の調和をとらせる



- 貯留された雨水を小学校のグラウンドの天然芝の散水に使って水道水を節約



- T建設事務所敷地の「雨庭」の植栽を、住民の有志と一緒に実施

## 期待される活用シーン

- 流域治水を自分たちの手で実施できない?
- 維持管理の手間やコストがやすすぐできる?



・できます!



この雨庭の形式なら!

- 地球温暖化に対して、賢く適応する方法は?



・あります!!



2017年  
4月8日  
朝日新聞



### その他の研究テーマ

- 小石原焼の里の生業・観光・風景の持続に関する調査研究
- 社会福祉施設職員の水害に対する意識に関する事例研究
- 相国寺の枯山水庭園における雨水浸透機能の実測と評価
- 立花口区の古民家における認証制度活用のための住民意識調査